資料２－１

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 菊かおる園地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

・閉じこもりや栄養改善等対策として、ホッと菊食堂（おとな食堂）を 11 回実施した。コロナ禍ではあったが、開催時には茜の里と共同し、毎回予約で満員（定員 10 名）となった。

・認知症の方の生きがい活動として、朝の掃除や花壇の水やりで１名。裁縫では雑巾縫いから１名で開始した。裁縫は最大４名となり「ぬいものクラブ」として実施した。防災頭巾も完成し、個々にあった「生きがい就労」を個々のペースに合わせて実施した。

・３職種会議に見守り支援担当者も参加した会議を毎月２回実施した。窓口相談だけでなくアウトリーチにおいて発見されたケースの異変を共有し適切な対応ができるよう個別に検討した。

【令和５年度 事業計画】

・ホッと菊食堂は、毎月１回実施する。今後も茜の里と共同し休みなく継続していく。次年度の回数や頻度、参加要件、運営者等検討し、地域における食堂として発展継続していく。

・生きがい就労は、「ぬいものクラブ」を継続実施する。個々の能力とペースを考慮し、活動しやすい環境を提供していく。

・３職種アウトリーチ会議を継続開催する。会議では対応が専門的かつ慎重に対応する個別ケースにおいての進捗や方向性を決定することが多いため、３職種でない役職者も参加し総合相談等に活かしていく。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

・（上記再掲）ホッと菊食堂実施し、地域の閉じこもりや栄養改善、社会交流の場を提供した。（右写真：ご利用の様子）
・３職種アウトリーチ会議にて議論、方向性を決定している。進捗確認できるだけでなく、チームで検討することで抱え込みを予防し、センターとしての判断ができている。また検討の中で、区の相談３事業を活用する機会が増えた。活用はセンターのエビデンスとなるだけでなく、センター職員のスキルアップにも繋がった。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 菊かおる園地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・地域の見守り体制においては、民生児童委員との連携で高齢者の変化に対応していくことも多かったが、年末に経験のある複数の民生児童委員が定年となり欠員状態となっている。

・第二層生活支援コーディネーターが配置され活動開始しているが、包括と第二層生活支援コーディネーターとの共有が出来ていないことも多く、各々の活動を活かしきれていなかった。

・地域ケア会議にて、地域づくり会議として地域との話し合いを実施しているが、以前から災害の備えに関する課題があった。

【令和５年度 事業計画】

・民生児童委員の欠員が多いため、包括・見守り職員が地域活動との関わりを強化し情報収集や連携をしていく。新しい委員の方との連携や町会、高齢者クラブ等だけでなく見守り協定先との連携も深め、重層的な体制を強化していく。

・第二層生活支援コーディネーターとは予定や情報を共有する。圏域連絡会での意見交換、おたより等の作成協力、出前講座などの共同開催などを通して一体的に活動していく。

・地域においては災害発生時の漠然とした不安を抱えている。具体的な備えに関して今できることを地域と共有していく

【目標を下回った背景/原因等】

・第二層生活支援コーディネーターとの連携については、包括も第二層生活支援コーディネーターも各々の活動を実施していたため、活動実績はあるものの、共有されていないことも多く、活動を活かしきれていなかった。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 東部地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

・東部圏域の医療・介護・福祉のネットワークの構築と強化を図るため多職種連携会議として豊島区東部医療介護事業所学習交流会（通称名ととか）へ参加し「高齢者の安心な生活を支えます」を開催。地域住民向けに寸劇を交えて医療・介護サービス利用方法についての説明や福祉用具の展示を行い使用方法を説明し、交流会を通して、連携の強化を図った。

【令和５年度 事業計画】

・今年度も豊島区東部医療介護事業所学習交流会（通称名ととか）へ参加し、東部圏域の医療・介護・福祉のネットワークの構築と連携を図っていく。現在は２日間区民地域住民向けの催しを企画中。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

・東部圏域の医療・福祉・介護の連携を深めることで多職種連携による地域包括ケアシステムの構築・強化を図った。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 東部地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・基本チェックリストの新規件数が目標値より下回った。

・つながるサロン（通所型Ｂ）が移行・開始されたが、圏域内全てのサロンに包括職員・見守り支援事業担当が訪問できなかった。

【令和５年度 事業計画】

・今年度も基本チェックリスト活用し推進していく。窓口相談だけでなく出張相談、出前講座や在宅へ訪問した際に必要に応じて案内し実施する。

・つながるサロン（通所型Ｂ）へ包括職員・見守り支援担当事業担当が交代で訪問し、現状の把握や理解を深め、必要な方へ繋げていく。

【目標を下回った背景/原因等】

・基本チェックリストの案内や実施は窓口が中心であった。
・つながるサロンについては、所内で分担し計画的な訪問は行っていなかった。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 中央地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

1. 短期集中通所型サービスの利用を終えた方から、「このままで終わらせたくない。」という声を受け、サロン活動の立ち上げ支援を行った。兼ねてより、見守り支援の課題となっていたタワーマンション内で開催することとなり、二つのニーズに対応することができた。

2. 安否確認通報が多い為、マニュアル改定に伴い PT メンバーを中心に OJT を 2 回実施して、全職員でマニュアルの読み込みを行った。三職種以外の職員が出動する機会が増え、センター内での意識と理解が深まった。

3. 金融機関からの相談に対して丁寧に対応することで、連携を密にとることができた。認知症の方を確実に包括に繋ぐために、行員が包括窓口まで同行してくださったり、人事異動があった際には、後任の行員を紹介して関係が途切れない配慮をしていただいたりした。

【令和５年度 事業計画】

1. もう１か所サロン活動の立ち上げ支援を行い、R６年２月に予定されている東池袋フレイル対策センターの移転後、現在のサロンに通えなくなる方の通いの場を作る。同じ方がいくつも担っていくのではなく、新たな担い手を地域から発掘していく。
2. 昨年に続き、終活あんしんセンターと講座の共同開催や終活あんしんセンター職員と同行訪問を通じて、終活情報登録事業など安否確認通報時に有効なサービスの利用促進の一端を担う。また、見守り訪問事業の対象を拡大して、早期発見の体制を強化する。
3. 金融機関など企業の方を対象にした、認知症に関する出張講座を開催するなど、お互いにメリットとなる取り組みを実践していく。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

タワーマンションにおけるサロン活動の立ち上げは、２層 SC やマンションを管轄している民生委員の協力を得て実現することができた。サロン活動は、「高齢者相互の見守り」「役割の創出」「生きがい活動」といった複数の機能を有している。立ち上がった後も、マンションの規約で「体操や運動」をすることができないことがわかり、急遽管理会社と民生委員、包括職員で協議した。結果、体操以外ならば飲食も可能な会場であることがわかり、孤食の問題に取り組む可能性が出てきただけでなく、別のタワーマンションへの展開も視野に入れて民生委員と検討することになった。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 中央地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

1. 委託先ケアマネジャーによる総合事業の利用実績が低調。
　元気はつらつ報告会で、A6 サービス利用者を対象に検討したり、担当者会議の席で提案したりといった工夫をしてきたが、成果を上げることができなかった。

2. コロナ禍における、オンラインシステムの活用については、苦手意識のある職員がいた。今後、移動時間の節約や会場の確保に関する手間と費用を削減するため、上手に活用していく必要がある。

【令和５年度 事業計画】

1. A6 サービスの利用者の把握、改善可能性のアセスメント、通所型サービス B・C の活用を通じて、A6 サービス卒業の実績を作る。
（1）A6 サービス利用者の一覧表を作成し、利用開始時と地用期間、長期利用の理由を確認する。
（2）ケアプラン評価時に、「元気はつらつ訪問事業」を活用し、リハ職の意見を取り入れる。
（3）A6 サービス利用者に対する、通所型サービス B・C の併用を試みる。
（4）自立支援個別ケア会議（元気はつらつ報告会）で、A6 サービス利用者を取扱い、積極的に利用を検討する。

2. 全職員が気軽に ZOOM ホストになることができる。
（1）ZOOM ホスト手順書の作成
（2）ZOOM ホスト研修（OJT）の開催

【目標を下回った背景/原因等】

1. 総合事業の理念「ちょっと前の自分に戻る」が、委託先のケアマネに十分浸透していない。また、包括職員による具体的な提案ができていなかった。A6 サービスは、リハ職が必置ではないため評価時やケアプラン原案作成時、サービス担当者会議などにおいて、リハ職の意見を聞く機会がないなど、複数の要因が考えられる。
2. ZOOM の活用に関しては、４年度の計画に位置付けてはいなかったが、ICT の活用における職員の個人差が目立った。日常生活において ICT と接している職員とそれ以外の職員がいるため、「慣れ」の問題が大きい。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

・**広報検討会**で地域情報、講座やイベントの報告、さらに地域課題の検討など実施。
ＣＳＷから高齢者以外の情報提供もあり、第２層ＳＣや包括との連携による対象者支援も増えてきた。
全体会議のゴミ出し支援モデル事業（ふくろう圏域で実施）に関しては、ゴミ出しだけでなく対象者宅の柿の木問題も検討

・**シン・広報検討会**発足し、住民目線での介護予防や総合事業の広報の仕方の検討開始。
総合事業をテーマに開催した多職種連携会議では参加者へ総合事業の理解を深めてもらうために、要点を絞り、参加と役割の大切さを強調し、高田介護予防センターのプログラムや住民へのインタビューなどもいれたビデオを作製。
さらに、4 機関（包括、第 2 層ＳＣ、高田介護予防センター、ＣＳＷ）がふくろうの杜圏域で連携が良いことをアピールし、どこに繋がっても介護予防にたどり着けることを強調

【令和５年度 事業計画】

・広報検討会にて、地域情報の共有や課題の検討継続
・シン・広報検討会では、区の介護予防の事業や各機関の広報の仕方を検討。届けたい人に届く広報を・・
・令和４年度は全体会議の
① 入浴の場の充実
② 高齢者のゴミ出し支援
のモデル事業に参加協力したが、
令和５年度も池袋敬心苑で実施される
（豊島区）入浴特化型デイサービスモデル事業へ
参加、協力し、銭湯がなくなったふくろうの杜圏域の
入浴問題を抱える住民の問題解決に尽力する。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

・圏域として住民の介護予防活動がさかんになってきており、通所Ｂ（つながるサロン）も多く、広報検討会ではその情報共有や課題の検討など行った。包括職員と通所Ｂコーディネーターとのやりとりの機会も多く、積極的に通所Ｂや地域の社会資源を活かすことに努め、見守り支援事業担当職員も訪問時に介護予防や社会参加の促しに務めた。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・長年、町会や高齢者クラブとの関わりが弱いと感じていたがコロナ禍でさらに停滞気味であった。しかし、池袋敬心苑の移送支援の取組への参加や、高田介護予防センターや第２層ＳＣを中心とした地域活動の活発化への支援、ウィズコロナや熱中症事業を軸とした見守り活動、町会主催の防災訓練参加などにより、徐々に連携が深まっている。町会や高齢者クラブの定例会に参加して、広報や見守り支援講座なども開催できた。
・コロナ禍で地域住民との地区懇談会が開催できていない

【令和５年度 事業計画】

・4 年ぶりに池袋敬心苑 1 階で「涼み処」を 6/15～9/15 に開所。チラシ持って圏域の全町会長に挨拶。
・地域住民へフレイル予防、介護予防や社会参加の必要性の普及啓発のために地区懇談会開催
・地区の町会と「防災」テーマにした地区懇談会開催
・「防災」に積極的な町会の防災訓練に参加

【目標を下回った背景/原因等】

・コロナ禍では、なかなか集合形態の会議が開催できず、開催形態を小規模に変更予定だったが、その際使用する素材（ビデオなど）の作成がすすまなかった。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

○介護予防・日常生活支援総合事業の推進
・訪問型や通所型サービスの利用により「少し前の自分を取り戻す」ことが可能な高齢者に対して積極的に基本チェックリストを実施し、個々に合ったサービス利用に繋げることで生活機能の改善を図ることが出来た。
・居宅介護支援事業所に対し、CM 研修会を通じて総合事業の対象になる利用者像や利用方法について情報提供を行い、利用促進につなげることが出来た。
○見守り支援事業担当による活動
・高齢者が参加できるイベントや気軽に相談できる場をつくり提供した。
圏域２か所での相談会（各１回/2 ヶ月）、体操イベント（年２回）、ウォークラリー（年２回）開催。
○権利擁護の取組み
・年々増加する高齢者虐待事案に対し、区や他機関と連携を取りながら速やかに対応した。

【令和５年度 事業計画】

○フレイル予防や活動の場の提供
介護予防・日常絵師括支援総合事業の利用促進を引き続き積極的に行うと共に、高齢者が気軽に社会参加が出来るような住民主体の活動の場の創設を支援する。
○認知症への取り組み
多職種との連携を更に深め、多問題を抱えた認知症高齢者への支援を適切に行えるように努める。
○地域資源の活用
２層コーディネーターや CSW と情報交換をしながら、地域地減作りや発掘を行い、有効的な活用を検討していく。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

○介護予防の視点を重要視し、コロナ禍で生活機能の低下が進んだ高齢者に積極的に声かけを行い、サービス利用に繋げることで、「ちょっと前の自分を取り戻す」ことが出来た。
・訪問型Ｃ15 件、通所型Ｃ12 件、元気はつらつ訪問８件実施。
○虐待通報は増加傾向にあったが、令和４年度は更に増え、高齢者虐待（疑）相談受付票の提出件数は 15 件にのぼった。多問題を抱えた事案が多く、他機関との連携強化が必要と感じた。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・前年度実施件数が少なかった基本チェックリストの実施に力を入れ、目標の 15 件を上回り 23 件実施することが出来、介護予防・日常生活支援総合事業の利用促進に繋げられた。

・地域ケア会議は 2 回開催。地域住民と一緒に災害連絡票を作成したが、最終目標としていた防災マップ作りは実施に至らなかった。

・認知症の普及啓発
認知症サポーター養成講座を年 2 回開催することを目標にしていたが、1 回開催にとどまった。

【令和５年度 事業計画】

・今年度も「防災」をテーマに地域ケア会議を 2 回開催予定。開催内容を工夫し、地域の方々と防災について学びながら有事に備える準備をしていく。防災マップの作成に関しては、地域資源確認の作業を行いながらマップに落とし込んでいき、最終的に防災マップとしての形になることを目標に時間をかけて行っていく予定。

・認知症の普及啓発
オンラインでの開催により年 2 回以上の開催を目標とする。

【目標を下回った背景/原因等】

・認知症サポーター養成講座開催に関しては、コロナ感染対策の為、対面方式ではなくオンライン開催としたが、今までオンライン形式で開催したことがなかった為、スライド資料を用意し、キャラバンメイト取得済みの職員で何度か練習をして準備を整えてからの開催となった為、後期に 1 回のみの開催にとどまった。オンライン形式での開催自体は滞りなく行えたので、令和 5 年度は開催回数を増やしていく予定。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

・高齢者の社会参加、住民主体の通いの場の拡大
介護予防リーダーとの情報交換会を機に、空き家を活用した茶話会や住民主体のサロンの立ち上げをバックアップすることができた。

・認知症に関する啓発・本人発信支援
区民講座と認知症サポーター講座を組み合わせた講座を２回開催。地域住民に対しての認知症に関する認識を深めることができた。

・いけよん圏域における多職種連携の推進
多職種連携活動体であるいけよんプロジェクトでは地域防災をテーマに専門職向けの講座や地域住民に対しての講座を実施。また、中学校の特別講座として地域の高齢者と専門職を可視化した授業を実施。地域包括ケアシステムの推進を図ることができた。

【令和５年度 事業計画】

・高齢者の通いの場の拡大・周知
第２層コーディネーターとの情報共有を密に行ながら、ケアマネ地区懇談会と介護予防リーダー情報交換会を一体的に開催し、地域の通いの場の拡大推進や通いの場の周知を図る。

・認知症に関する多世代への啓発
区民講座を継続して行うとともに、多世代に向けた認知症に関する正しい知識の普及啓発活動を実施し、認知症を早期発見できる地域づくりに繋げる。

・いけよん圏域における多職種連携の推進
地域包括ケアシステムの構築をさらに推進させるべく、いけよんプロジェクトの事務局運営を担いながら、多職種の参加を積極的に促していく。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

・いけよん圏域における多職種連携の推進
多職種連携活動体であるいけよんプロジェクトの事務局運営を担い、地域包括ケアシステムの構築を推進することができた。
コロナ禍であっても公開講座を対面、オンライン、ハイブリット開催にするなどの工夫をし、いけよん地区の連携強化に寄与した。
池袋中学校の卒業特別授業では高齢者と専門職の関わりを可視化した講義を行い、ヤングケアラーの実態も把握できた。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・高齢者総合相談センターの周知

区民ひろばでの出張相談、集合住宅での会合、民生員の班活動や町会活動で高齢者総合相談センターの周知活動をし、プレフレイル層の発掘を行った。
更なる高齢者総合相談センターの周知に向け、多世代へのアプローチが必要。

・介護予防ケアマネジメントの推進

ケアマネジャー地区懇談会を開催し、地域の課題についての意見交換や総合事業に関するケアマネジメントについての理解を促した。
地域情報を共有する機会が減少しているため、ケアマネジャー地区懇談会の頻度を増やし、さらなるケアマネジメントの質の向上に努める必要がある。

【令和５年度 事業計画】

・高齢者総合相談センターの周知

小中学生などに向けた介護体験会や講義を実施することで、多世代への高齢者総合相談センターの周知に繋げる。
地域住民への周知のため、集合住宅の会合、民生児童委員の班活動、町会活動等で包括パンフレットを配布するなど PR 活動を毎月行う。

・介護予防ケアマネジメントの推進

MCS（メディカルケアステーション）を活用しながら、ケアマネジャーと情報共有を行うとともに、ケアマネジャー地区懇談会の頻度を年４回に増やし、地域情報・課題の共有や研修会を開催していく。

【目標を下回った背景/原因等】

・高齢者総合相談センターの周知について、予定した頻度で地域活動に参加し周知活動を行うことはできたが、４年前の施設移転に伴ったセンターの場所の認知度を上げることができなかった。
・コロナ感染症の影響で、予定していた時期のケアマネジャー地区懇談会準備会が開催できなかったことにより、地域のケアマネジャーの課題抽出に至らなかった。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 アトリエ村地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

・地区懇談会でアトリエ圏域版『地域の担い手交流会』を開催。
つながるサロンのコーディネーター１２名が参加。

コロナ禍で閉じこもり・フレイル傾向の高齢者を地域活動に繋げる為、つながるサロンコーディネーター同士が情報・意見交換をした。お互いのサロンの情報を提供しあう事で、コーディネーターの横のつながりになった。包括としては介護保険サービス以外の活動の場の特徴を知る機会やコーディネーターとの顔の見える関係構築に役立った。

【令和５年度 事業計画】

・長崎・南長崎地区懇談会の開催。
新型コロナが流行した令和２年以降、対面開催ができず。この間民生委員や包括職員の交代があり、以前のような顔の見える関係性が無くなってしまった。その為今年度は対面での開催をする。
テーマ：「防災」～災害発生時、各関係者が地域でどのような役割を担っているのかを知ろう～
参加者：民生委員、町会、ケアマネジャー、介護サービス事業所、ＣＳＷ、第２層生活支援コーディネーター・アトリエ村施設関係者、アトリエ村包括。
地域住民・介護関係者が共通するテーマで集まる事で、顔の見える関係性の再構築に繋げる。アトリエ村包括は特養併設である。特養は福祉救援センターとしての役割があり、包括は地域の高齢者の安否確認報を集約する役割がある。同じ建物で異なる役割がある為、相互理解をして発災時の対応力を高める。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

・アトリエ圏域版『地域の担い手交流会』を開催。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 アトリエ村地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・総合事業の活用
短期集中訪問型サービスが７件、短期集中通所型サービスが１件の利用に終わった。令和３年度よりは微増となったが、まだまだ十分に活用できたとは言えない。

【令和５年度 事業計画】

・異動や入職による新しい職員を対象とした高齢者福祉課主催の総合事業研修会に参加する。
・アトリエ村包括内での総合事業の勉強会を開催。
・今年度実施する２か所の圏域内の短期集中通所型サービスＣを見学。そのほか通所型サービスＢ（つながるサロン）への訪問。

【目標を下回った背景/原因等】

・デイサービスが多数ある為、短期集中通所型サービスのように開催時期を待たずに利用が出来てしまう。
・デイサービス相談員が常時、空き情報の提供を兼ねて営業活動を行っている。
・新しい包括職員の総合事業の理解度が不十分。

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 西部地域包括支援センター 】

強みを生かした目標

【令和４年度 実績報告】

○地域ケア会議の実施

地区懇談会は「地域の支え合う力を高めるには」をテーマに開催した。ゴミ出し支援のモデルケースについて取り組んだ中で、「仕組みがあれば支援がすぐできるわけではない」「地域での助け合いにはもともとのつながりが大切」など、ゴミ出し支援の仕組みづくりだけでなく、「地域での支え合い」やすでに個々に活動している方々がいる状況が分かった。

○高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大

第 2 層生活支援 SC と連携し、通いの場となるような講座（「ポール de ウォーク（11 回）」「まちづくり講座（７回）」）を開催し、地域住民の外出の機会を増やすことが出来た。

【令和５年度 事業計画】

○高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大

「まちづくり講座」をきっかけに、「健康マージャン要」や第 2 層 SC を中心とした「豊島区にサロンを作る会」（通称：としサロ）がたちあがった。「ポール de ウォーク」についてもつながるサロンへの移行を目指しており、地域住民の想いが「形」になるよう、引き続き働きかけを行う。

○認知症介護者・支援者への支援及び普及啓発

・認知症の普及啓発として多世代に向けて「認知症サポーター養成講座」や「認知症支援講座」を開催するなど継続的に地域住民等へ働きかけていく。

・西部多職種連携の会では「認知症」を大テーマとして開催する。

【令和４年度 実績の中で特に力を入れた活動】

・地区懇談会に向け、ゴミ出し支援のモデルケースを実施した。また地域で助け合いをしている方へ「地域の助け合いの現状」について聞き取りを行った（12 件）。

・通いの場となる「ポール de ウォーク」講座を開催した。西側エリアでは初開催となったため、参加者や担当 CM から講座継続を希望する声を多数いただいている。

ポール de ウォーク

令和4年度 実績報告 及び 令和5年度 事業計画
【 西部地域包括支援センター 】

課題に対しての目標

【令和４年度 実績報告】

・訪問型・通所型サービスの推進
本人の状態や意向に合わせて利用できるサービスを提案するためにも他圏域で行われている通所Ｂ（つながるサロン）について活動状況の把握に努めた。

・相談支援体制の充実
3 か所の区民ひろばにて出張相談窓口を開設した（72 回）。今まで関わったことがなかった区民ひろばの活動参加者へ包括の周知や一般施策、フレイル予防等について情報提供することが出来た。

【令和５年度 事業計画】

・訪問型・通所型サービスの推進
窓口や出張相談で基本チェックリストを実施し、早い段階でセルフマネジメントが出来るよう、通所Ｃや「つながるサロン」など適切なサービスに繋げる。

・相談支援体制の充実
区民ひろばの活動へ参加していない方や元気な高齢者に対し、包括や施策等について周知するため、第 2 層 SC や CSW と連携し、福祉住宅等で茶話会を企画する。

【目標を下回った背景/原因等】

・「つながるサロン（西部圏域外）」について活動状況の把握が不十分だったため、卒業後に繋げる先が限定されていた。